

「人材バンク利用相談窓口」を開設して

福祉対策室長 服部 淳一

人材バンクは四月にスタートして半年が経ちました。利用されている方たちからは喜んでいただいているのですが、中にはこのバンクことや利用方法が分からない方も多くおられるのではないかと思います、地区民が集うコミュニティ祭りに利用相談窓口を二階和室に開設させていただきました。

窓口には、事務局二人が利用状況や申込み方法等の資料を準備して、皆さまのご相談に応じられるようお待ちしております。

相談内容は、長鳥にお住まいの六十歳の女性が二人で来られ、今はバイクで診療所に通院や薬をもらいに来ているけれども、これから寒くなると大変なので人材バンクを利用できるか。また、北条にお住まいの八十六歳の男性は、祭りの案内に人材バンクのことが載っていたので相談に来られたとのことでした。



相談光景  
お気軽にお電話ください  
電話 25 - 3355

ほかに数件の質問や問い合わせがありました。事務局では、年齢や家庭状況等をお聞きした上で、支援できるかどうかを判断し、対象可能の人には、遠慮しないで気軽に利用してほしいと細かく手続き等を説明させていただきました。相談件数的には多くはなかったのですが、それでもこのバンクの存在が徐々に理解され、頼りにされると思うと、更なる努力の必要性を深く感じたスタッフの一日でした。

南・北小学校の3・4・6年生が合同で  
北条ゆかりの人について学ぶ

南小学校六年担任 佐藤 祐貴

本校六年生が本年度の総合学習で取り組んでいるのは郷土学習です。

現在学んでいるのは中世の北条、北条城主と藍沢南城先生のことです。

九月三十日、コミュニティセンターにおいて、水野隆雄先生(長岡市在住)をお招きして南小三・四年生、北小三・四・六年生と一緒に北条ゆかりの人たちについてお話を聞きました。

水野先生から、南城先生の生い立ちから思想までを分かりやすくお話していただきました。子どもたちは真剣に聞き入ったり、ノートにたくさんメモを残したりしていました。

今後は学習発表会などの場で全校に学んだことを伝えていく予定です。

これからの地域学習を通じて、北条を誇りに思い、大切に育てていきたいと思っています。

昔の人ってえらいなあ

北小三年 荒川 茉希

コミュニティセンターで南城先生についてお話を聞きました。「三余堂」をついたり、夜もねないで勉強したり、すごい先生なのだなあ、わたしにはとつてもできないなあと思いました。

また、北条のいろいろな人の話を聞きたいです。

南小六年 猪俣絵梨香

話を聞いて一番心に残ったことは、藍沢南城先生が「家族を大切にしないさい。人の心を分かるようになりなさい」と教えていたことです。私もそれが大切なことだと思っています。

北条北小の人たちと一緒に勉強できたこともうれしかったです。



古布の心に

触れた孫  
かすりの会

代表 関 スミ

手芸教室かすりの会は、十月十二、十三日、野沢温泉にある古布の店「三久工芸」を訪ね、店主から古布についての指導をいただきました。

蔵を改造した店内には、木綿、麻、綿などの古布をステキに再利用した作品が並び、一瞬にして私たちをとりこにしました。

店主は特別に、江戸、明治のころに夜具として使われた筒描きや型染めなどの貴重な品々も見せてくださいました。そして、その絵柄には、豊作を願うもの、子どもの成長を祈り、嫁ぐ娘の行く末を案じて織り、描かれたものなど、庶民の強い願望が込められていることを教えられました。

知恵と工夫次第で、どんな小さな端切れでも、見事に先人たちの思いを蘇らせることができる古布。

新たな作品づくりへのエネルギーが生まれる意義ある旅になりました。